

# 金沢の用水

(辰巳用水を中心に)

期間 平成17年11月5日(土)～平成18年1月15日(日)

場所 金沢市立玉川図書館近世史料館展示室



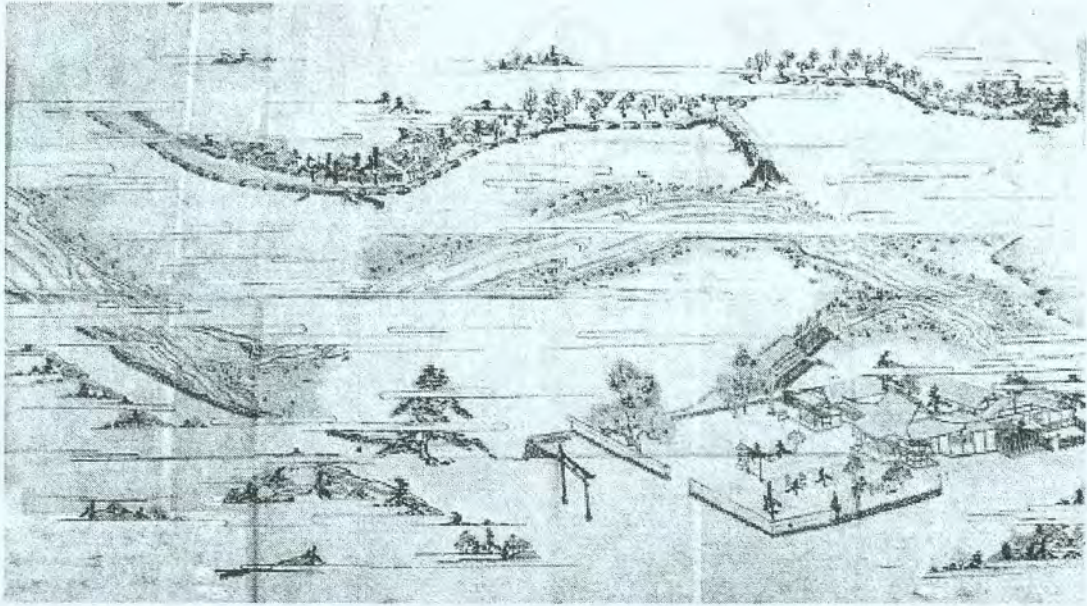
(取水口部分拡大)

## 辰巳用水図 (観-9)

辰巳用水は、寛永9年(1632)小松の町人板屋兵四郎が前田利常の命により建設したと伝えられ、上辰巳村より城内に至る用水です。

掘削当初は、取水口を犀川上流上辰巳の雉にとり、そこから3.3キロの隧道を穿って、7.4キロの開渠で山の根を掘回し、小立野台地に水を揚げ、兼六園の側から城内に揚水されたといわれています。

上図は、文政期に書かれた図とされています。

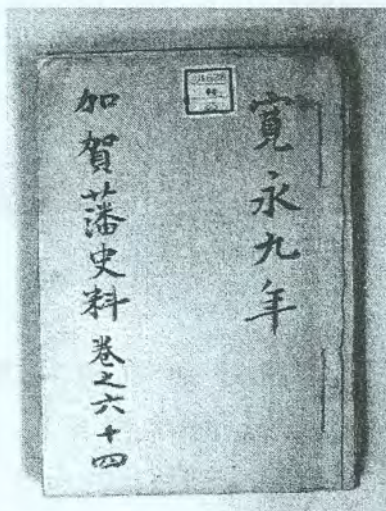


### 金沢才川々下之景 (16.84-43)

現在の犀川に架かる御影橋附近の江戸時代の様子を  
知ることが出来る絵図。

犀川は現在と異なり、曲がりくねった形状が見られ、  
途中から町屋の近くに引き込まれて、再び川に戻って  
いる様子が分かります。手前の神社は、対岸中村の春  
日大社の別社で明治7年(1874)に犀川神社と改称さ  
れました。

図は、明治39年(1906)に手写しされたもので、  
原本は明和年間(1764~1772)以後の製作と推察され  
ています。



### 加賀藩史料 (16.28-88)

刊本加賀藩史料(編年体、明治4年  
まで17冊、編外1冊、日置謙編)の  
草稿。刊本に省かれた事項も含まれて  
いる詳しい史料です。但し、天保14  
年(1843)で終わり、以下を欠いてい  
ます。

板屋兵四郎の由緒帳や縁起書の写し  
が記載されている部分を展示していま  
す。



越登賀三州志本記 (16.84-7)

富田景周著

原本は寛政10年(1798)成立。

富樫氏をはじめて加賀に封じられてから、松雲公(5代藩主綱紀)が中将に任ぜられるまでの三州の歴史を考証を交えて概括的に記載しています。

三壺間書 (16.28-12)

加賀藩宰領足輕山田四郎右衛門が宝永年間に編纂したもので、鎌倉・室町時代の簡単な記述から始まり、信長・秀吉・家康と漸次詳細度を増し、ついに殆ど加賀藩のみの記事となり、利常薨去の時まで記載されています。



菅君雜録 (16.12-3) 高島定延編

初代利家の誕生から延享4年(1747)までを編年に集成。

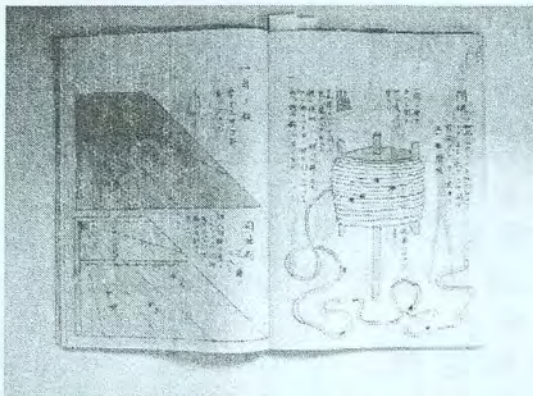
本条の下に注釈を記載し、布達文も記載されています。

著者は、通称左門、700石、大小将組、寛延元年(1748)小松馬廻番頭、同10年7月17日歿、73歳。

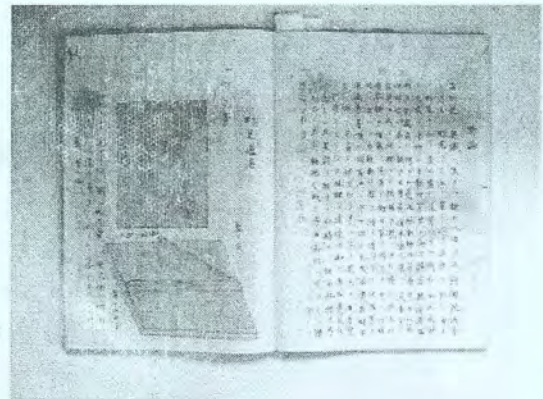
## 主な展示史料リスト

- 金沢図 (大1024)  
辰巳用水絵巻 (観-9)  
寺津用水分間之図 (16.65-222)  
石川郡大豆田村等用水附替大野庄用水之内分水一件附絵図  
(16.65-225 ⑦)  
河北郡河原市用水図 (16.65-229)  
政春古兵談 (16.81-245 ③)  
加賀藩史料 (16.28-88 63)  
三壺間書 (16.28-12 ⑱)  
越登賀三州志本記 (16.84-7 ⑰)  
菅君雑録 (16.12-3 ⑨)  
金砂子 加賀 (16.84-37)  
金城旧記 (16.18-4)  
本藩御年譜 (16.28-44 ①)  
町見便蒙鈔 (16.87-5)  
加州郡方旧記 (16.63-77 ⑬)  
改作所旧記 (16.64-39 ⑥)  
金沢才川々下之景 (16.84-43)  
天徳院絵図 (16.61-297 ②)  
金城上水新川口図 (大1079)  
御上水并土清水村領等新江筋見取之図 (16.65-221)  
郷史談叢 (096.0-79)  
金沢墓誌 (096.0-93)

\* 上記展示史料は展示替により展示されない場合があります。



町見便蒙鈔 (16.87-5)



町見便蒙鈔 (16.87-5)